

2025年2月17日 日本テレビ定例社長会見

新体制

1月より日本テレビ放送網は新体制となり、登壇者4名での初の会見

福田 博之	代表取締役社長執行役員	経営戦略、コンテンツ戦略
柴田 岳	取締役副社長執行役員	営業統括、メディア戦略統括
澤 桂一	取締役常務執行役員	事業、海外戦略、不動産
山田 克也	取締役執行役員	総務、広報、コンプライアンス

《要旨》

1. 営業状況

・放送収入

1月単月タイムは箱根駅伝特番や年始セールス等の好調により、トータルで前年を上回った。スポットは前年1月が日本テレビの過去最高売上げを記録していたため、そこはやや下回り前年比98.6%での着地。タイムとスポット合わせてのトータル前年比は100%を超えた成績となった。

・放送外収入

昨今、展覧会や音楽イベントが若い人を中心に活況を呈している。「モネ 睡蓮のとき」は80万人を超える記録的な動員だった。現在開催中の「ハローキティ展」「旧嵯峨御所 大覚寺一百花繚乱御所ゆかりの絵画―」「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」、三重で開催している「金曜ロードショーとジブリ展」いずれも好調。

音楽イベントもいろいろやっているが、印象的なのは先日行われた、ちゃんみなさんプロデュースのNo No Girlsの最終オーディション。Kアリーナ横浜が満員となり、YouTubeでは50万人超が視聴した。No No Girlsから生まれたHANAというグループにも今後注目いただきたい。

海外ビジネス拡大戦略の基本方針を2月6日に発表した。具体的なコンテンツなどは随時発表する予定。

2. 質疑他

Q. 新社長としての意気込み、今年1年の抱負について

A. テレビの仕事に憧れて日本テレビ放送網に入社して仲間と共に番組を作ってきた。時代の流れとともに世の中のテレビに対する評価や期待は大きさや形を変えてきているが、放送事業者が置かれている現在地を正念場と心得て、テレビ業界と日本テレビが少しずつでも存在感を増していくことが出来るよう、努めたいと考えている。PUT低下のトレンドに歯止めをかけつつ視聴率のトップシェア獲得を目指していきたい。明るくて元気が出る話題をお届けするべく頑張っていくので、引き続き応援をお願いしたい。

Q. 1月期ドラマの所感

A. 1月期ドラマには手ごたえを感じている。私も楽しく視聴している。

土曜よる9時の「相続探偵」は、探偵ものが多くある中で、相続問題に特化するのが作品の個性であり、飄々としているが芯の強い主人公を赤楚衛二さんが好演していることにより、作品に厚みが出ていると自負している。

土曜よる10時の「アンサンブル」。ラブストーリーは、日テレが制作すると“ラブコメ”になってしまうのが常だったが、このドラマはいい意味で日テレらしくなく本格的なラブストーリーに仕上がってきており、配信も初回から200万回を超えており好調。さらに話題作になってくれると確信している。

日曜よる10時半の「ホットスポット」は、バカリズムさん脚本で「ブラッシュアップライフ」のチーム制作ということで、スタート前から期待が高まっていたが、出演者の演技力が脚本に力を与え、見ごたえのあるものになっている。市川実日子さんはじめとするお芝居上手な役者さんの力が相まって、ドラマの枠組みを超えた極上のエンタテインメントになっている。SNSでの考察も盛り上がってきており、元々高かった前評判を超えてきている、という手ごたえだ。

Q. 3月放送の「MLB開幕戦2025」への期待

A. MLBの日本開幕戦は6年ぶり6回目の開催となるが、2004年はヤンキースの松井秀喜選手が躍動、2008年は前年に世界一となったレッドソックスの松坂大輔投手が凱旋、そして前回の2019年はイチロー選手の引退と、歴史に残る試合をお伝えしてきた。

今回はまず、ロサンゼルス・ドジャースとシカゴ・カブスが東京で真剣勝負を繰り広げる。ご存知のとおり、前人未踏の「50-50(50本塁打&50盗塁)」、そして2年連続3回目の満票MVPを獲得したドジャース大谷翔平選手、そして日本人で史上2人目のワールドシリーズでの勝利を挙げた山本由伸投手は開幕投手の可能性がささやかれている。ルーキーイヤーの去年オールスターに出場し、シーズン15勝を挙げたカブスの今永昇太投手、主軸としてMLB4年目のシーズンを迎える鈴木誠也選手と、NPB出身のMLBスター選手が目の前で戦う。さらにはドジャースに入団したばかりの佐々木朗希選手の、第2戦先発の可能性も伝えられている。

また両チームが、巨人・阪神と対戦するプレシーズンゲームから注目されること間違いなし、地上波やBSで全試合中継するのでぜひご期待いただきたい。私も心待ちにしている。

Q. 中居正広氏をきっかけとするフジテレビの一連の問題について

A. 今回の事案については、フジテレビ内でどのような問題があったのか、今後の第3者委員会の調査結果を注視している。日本テレビとしても、メディア全体の問題として他人事ではないと受け止め、人権やコンプライアンスへの認識を改めて社内で周知し、問題があれば社内外に設置している通報窓口へ連絡するように改めて徹底した。

また、先日2月14日金曜日に結果報告をリリースしたが、社内でのヒアリングを実施した。

Q. 2月14日にリリースした「ヒアリング等」に関するご報告について

A. 2月14日に「ヒアリング等」に関するご報告をリリースした。今回は人数を絞って、女性アナウンサー25人、番組制作を主に担うコンテンツ制作局・報道局・スポーツ局の幹部・プロデューサーなど161人、合計186人を対象に行った。女性アナウンサーには直接聞き取りし、制作担当者には、アンケートをとったうえで弁護士と相談し、話を聞いた方がいいという人を抽出して一部聞き取りをした。結果今回は該当するような不適切な会食はなかった。これで終わりということではなく、すぐには答えられない人もいる可能性を考慮して、改めて社内外の「通報窓口」を周知した。

また今回の事とは別に、匿名で人権デューデリジェンスのアンケートを春に実施することを予定している。

Q. 一連の中居正広氏のトラブルに関する報道と対話について

A. 昨年の12月17日に、中居氏本人から「雑誌の取材を受けた。」という報告はあったが詳しい内容の説明はなかった。1月6日に中居氏本人に説明に来ていただき対話をした。「この件に関しては守秘義務があるので細かいことはお話しできない、ご迷惑をかけて申し訳ありません。」という話だった。トラブルの詳細についてはお話しいただけなかった。

12月27日「ナカイの窓 復活 SP」の段階では、週刊誌報道のみで中居氏の出演を見送る判断は出来なかった。1月7日の「ザ！世界仰天ニュース 4時間 SP」については、ご本人はじめ関係者との対話でトラブルがあったことについては確認が出来たので、出演シーンのカットという判断をし、その後番組の降板という判断をした。今回の対応については間違っていなかったと思っている。

Q. 中居正広氏が降板した「ザ！世界仰天ニュース」の出演者について

A. 番組制作現場では考えている可能性はあるが、現時点では何も決まっていない。

Q. 中居正広氏のこれまでの貢献についてのコメント

A. 引退されたので番組出演が叶うものでもないし、もう一度出演して欲しいとご本人に伝えるつもりもない。しかし長い間頑張っていたいただいたので、それに対する感謝の気持ちはストレートにお伝えしたいと思う。

Q. 昨年11月に発表したFYCS(読売中京FSホールディングス)の狙いについて

A. 日本テレビの系列のみならず民放各社の系列は今後の在り方について真剣に考えていくタイミングであることは改めて言うまでもなく、ネットワークが有効に機能しながらどのように発展していくかを考え、まずは最良の形だろうと設立したのがFYCS。

4社は昨年4月に発足した「NNS ブロック会議」の各地域の幹事局であり、各ブロックでの議論をより活発なものにしてネットワークを活性化してもらえればと思っている。

メディア戦略担当から見て、日本テレビの考え方は、全国に展開するネットワークの体制を強化していきたい、というのが大前提。各ブロック地域の幹事局になっているFYCS4社の経営を安定させることが、強化の第一歩だと思っている。4社それぞれが共同で人員・技術・番組制作・投資への課題に、エリアを超えて取り組むことで新たな可能性を追求できる。

ネットワークの幹事局・株主として日本テレビは応援し、日本テレビの株主である読売新聞社もそれに賛同し、4社とともにFYCSを立ち上げた。まずは4社でどういったシナジーが生まれるかを、日本テレビ系列各社のみならず他系列各社も注目していると思われるので早めの成果を期待している。

Q. KAT-TUN解散、亀梨和也氏の事務所退所について

A. グループ解散や退所を理由に亀梨さんの出演を考え直すという考えは番組現場にはなかったと思う。ご存知のとおりスポーツをこよなく愛していらっしゃるので大変頼もしい出演者の一人として引き続き出演していただく。

Q. 「ズームイン！！サタデー」の終了、「シューイチ」編成の意図について

A. 「ズームイン！！サタデー」もかなり長く放送されているので、この辺で週末の景色を変えてみたいな、と。その際にまったくの新しい企画にするか、日曜日朝に視聴者の皆様に支持されている「シューイチ」ブランドで週末をくるか、かなり長い間悩んだ経緯があった。結果、「シューイチ」で週2という問題はあるが、「シューイチ」というタイトルで土曜日も放送する。出演者等についてはまだ発表前だが、まもなく発表できると思うのでもうしばらくお待ちいただきたい。

Q. 中丸雄一氏の「シューイチ」出演の可能性について

A. 発表できる段階にないので、全てにおいて可能性はゼロではないということ。

Q. 2月6日発表した海外ビジネス拡大戦略の基本方針について、予定されているコンテンツや投資額は？

A. 10年間1000億の金額目標については全く根拠がないわけではなく、グローバルプラットフォームへのセールスやバラエティのフォーマット販売、ジブリの展覧会や舞台の展開、これらを飛躍的に拡大させようと試みている。絵にかいた餅にならないように全てのセクションが海外での目標を持って臨んでいく。企画についてはこれから社内のみならず制作会社からも広く募り、結果が出たらWINWINになる構造を想定している。コンテンツが具体的に実る時期は明確には言えないが、出来るだけ早くと思っている。

投資額に関しては、中期経営計画を策定中なので、その発表の5月あたりにお知らせ出来ると思っている。

Q. 違法オンラインカジノに関わった芸能人の出演について

A. 現段階で該当する出演者がいないので、今後変更する番組等はない状況。必要が生じた場合は事務所に確認・対話を求め、適切に対応していく。

Q. 2月8日「世界の果てまでイッテQ」放送内容の変更について

A. 残念ながら放送前に当該団体に関して、いわゆる統一教会と結びつく情報を得るには至らなかった。外部の方からご指摘をいただき調べた結果、放送内容を変更することになった。取り止めた理由は、宗教団体だからという理由ではなく、いわゆる統一教会の高額献金や霊感商法の問題を受け、文部科学省が“統一教会”に対する解散命令を東京地裁に請求し、審理が続いている状況であることを鑑みて、そのような団体の関連団体とみられる団体の宣伝行為に加担すべきではないという判断だ。

Q. 「セクシー田中さん」の事案から1年、ドラマ制作の過程は改善されているか？

A. 我々が決して忘れてはならないことだということを確認しながら、去年7月に策定した制作指針に則って制作活動を進めている。原作側との意思疎通をより丁寧に行い、良好な関係で制作・放送出来ている。企画決定のスケジュールや原作の許諾などを早める努力を続けており、まだ完璧ではないがかなり実現できている。

Q. 「行列のできる相談所」、3月で番組終了することについて

A. 長く日本テレビの看板番組として頑張ってくれた。2002年にスタートし、法律という一見難しいジャンルを分かりやすく身近な存在にして、結果を出してきた。弁護士の方々の熱のこもった討論は見ごたえがあり、1000回の放送の中ではカンボジアに学校を作ったり、多くのスターを輩出したり、法律番組にとどまらず、スーパーバラエティとして存在感を放ってきた。出演者・関係者の皆様に敬意を表すると共に、改めて感謝申し上げる。

(了)

福田 博之 代表取締役社長執行役員
柴田 岳 取締役副社長執行役員
澤 桂一 取締役常務執行役員
山田 克也 取締役執行役員